

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
センター長 兼糖尿病・内分泌代謝内科副部長	大槻 朋子

＜関連部署＞

部署名	部署名
糖尿病・内分泌代謝内科	検査・栄養部門栄養管理

＜特色と概要＞

糖尿病治療の目標は血糖値を良好にコントロールすることにより、合併症の発症、増悪を予防し、健康な人と変わらない寿命を確保することである。そのためには、長期間、患者の生活全般にわたって介入することが必要になる。

糖尿病センターでは患者の長期にわたる療養をサポートするため、外来、入院にて活動を行っている。隔月に糖尿病センター運営委員会にて行い、方針の確認を行っている。具体的な役割を以下に挙げる。

- 外来での療養に関する患者サポート(フットケア外来、糖尿病透析予防指導)、慢性合併症の評価。
- 糖尿病教育入院中の患者指導(糖尿病教室、DVD教室)
- 市民啓発活動(生活習慣病教室、世界糖尿病デーりんくう健康フェスタなど)
- 血糖自己測定装置の精度管理、患者指導、運用
- 糖尿病療養指導に関わる人材の育成
- 学会発表による発信

＜実績＞

① 糖尿病外来患者の大血管合併症評価の促進

外来通院中の糖尿病患者における大血管合併症の早期発見・早期治療を目的に頸動脈エコー、ABI、心電図を年に1回評価することを目標としている。

2024年度検査件数		(件)		
検査名	外来	入院	総計	
ABI	173	5	178	
心電図検査	198	35	233	
超音波検査(断層撮影法)(頸動脈)	179	20	199	

上記検査にて異常が認められた場合には循環器内科、脳神経外科に紹介しており、合併症の発見治療に有用である。引き続き大血管合併症の評価を継続し、更に施行率を高めていく必要がある。

② 糖尿病透析予防指導の状況

糖尿病透析予防指導管理料は糖尿病腎症2期以上の症例について医師、栄養士、看護師が指導を行った場合算定可能であり、当院では糖尿病腎症早期予防指導という名称で通院患者の指導を行っている。指導件数は2017年以

降増加傾向にあったが、2022年度以降は減少した。2024年度後半より再度対象患者の洗い出しを行い、取り組みを強めている。糖尿病腎症2期以上の患者で未指導の患者も多数存在しており、受診を勧めていく。

③ 入院患者の増加についての対策

2021年10月より妊娠関連糖代謝異常(妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠)の患者を当科入院にて血糖コントロールを施行。2024年度は49症例に関して加療を行っている。

● 院内および院外啓発活動

院外啓発活動として、第8回世界糖尿病デー、りんくう健康フェスタを2024年11月16日(土)に行った。本年のテーマは『糖尿病と動脈硬化～骨とあなたの血管を守ろう～』であり、当院理事長の山下静也医師より講演を頂き、その他骨密度チェックやABI測定などの無料検査、フレイル度チェックの体力測定などを行った。

● 血糖自己測定器の管理、運用に関して

昨年に引き続き血糖自己測定器について精度管理および患者説明を臨床検査技師にて施行した。

● 学会発表について、糖尿病関連の発表は今年度行えなかった。

＜今年度の反省と来年度への抱負＞

今年度は糖尿病センターのメンバー中3人が入れ替わりとなり新戦力で診療にあたることになった。糖尿病治療は効果の高い新薬や持続血糖測定器の出現で外来でも治療できる患者が増えている。そのような状況下でも教育入院で食事療法を体験し、じっくりと自身に向き合う時間を持ち、疾患に関する知識を得る重要性は変わらず存在しており、地域のセンター病院として引き続き近医とも連携し必要な患者に教育入院の場を提供していきたい。また入院する時間的余裕のない糖尿病患者には、外来にて日進月歩の新しい糖尿病治療を提供していきたい。今年度は糖尿病関連演題での学会発表が出せず、次年度は学会発表についても追求していきたい。